

# 平成30年度病害虫発生予報第5号

平成30年 8月 3日  
愛 知 県

## 普通作物

### ・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	やや少ない	県全域	7月下旬の葉いもちの発生量は 平年並 穂いもち抵抗性品種の作付けが 多い	± -
	紋枯病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	± ±
	白葉枯病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ニカメイガ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数はやや少ない	± ± -
	セジロウンカ	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯において誘殺されていな い	± -
	トビイロウン カ	やや多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い 予察灯において誘殺されていな い(平年並)	+ ±
	ツマグロヨコ バイ	少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない 予察灯における誘殺数はやや少 ない	- -

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	斑点米カメムシ類	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	やや少ない	県全域	7月下旬の被害株率はやや少ない	—
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は少ない	± —
	コブノメイガ	平年並	県全域	7月下旬の被害株率は平年並	±
ダイズ	ハスモンヨトウ	<b>やや多い</b>	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 8月の気温は高い	± +
	オオタバコガ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない 8月の気温は高い	— +

#### ・防除対策

##### 〔イネ・トビイロウンカ〕

スタークル／アルバリン顆粒水溶剤などで防除しましょう。なお、発生状況等の詳細は、本日発表の「ウンカ情報第2号」を参照してください。

##### 〔ダイズ・ハスモンヨトウ〕

本日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号（ダイズ）」を参照してください。

#### ・留意事項

ダイズのオオタバコガについては、本日発表の「オオタバコガ情報第1号（ダイズ・キャベツ・キク）」を参照してください。

## 果樹

#### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の胞子形成量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ミカンハダニ	<b>やや多い</b>	県全域	7月下旬の発生量はやや多い	+
	チャノキイロアザミウマ	<b>多い</b>	県全域	7月下旬のイヌマキにおける発生量はやや多い 粘着トラップにおける誘殺数は多い	± +
ナシ	うどんこ病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	<b>やや多い</b>	県全域	7月下旬の発生量はやや多い	+
	ナシヒメシクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
モモ	モモハモグリガ	少ない	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は少ない 7月下旬の被害葉率はやや低い	－ －
カキ	うどんこ病	少ない	県全域	7月下旬の発生量は少ない	－
	カキノヘタムシガ	平年並	県全域	第1世代幼虫による被害果率は平年並	±
	コナカイガラムシ類	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	多い	県全域	7月下旬のヒノキ林における生息頭数はやや多い 8月にヒノキ林から離脱する	＋ ＋

#### ・防除対策

##### 〔ウンシュウミカン・ミカンハダニ〕

バロックフロアブルやコロマイト水和剤などで防除しましょう。

##### 〔ウンシュウミカン・チャノキイロアザミウマ〕

本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第3号」を参照してください。

##### 〔ナシ・ハダニ類〕

マイトコーネフロアブルやスターマイトフロアブルなどで防除しましょう。収穫が始まっているほ場では、収穫前日数や周囲への飛散に注意して散布しましょう。

##### 〔果樹共通・カメムシ類〕

ヒノキ林での生息状況や離脱時期の詳細は、8月1日発表の「果樹カメムシ類情報第3号」を参照してください。また、防除対策は4月3日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第1号」を参照してください。収穫中、あるいは収穫に近いほ場では、収穫前日数や周囲への飛散に注意して農薬を選びましょう。

#### ・留意事項

ナシ黒星病やモモせん孔細菌病、ブドウべと病がやや多い状況です。次作の越冬源量を減らすのため、収穫後の防除を検討しましょう。

## 野菜

#### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	オオタバコガ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない 8月の気温は高い	－ ＋
	シロイチモジヨトウ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は多い 8月の気温は高い	＋ ＋
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並からやや少ない 8月の気温は高い	± ＋

#### ・防除対策

##### 〔キャベツ・シロイチモジヨトウ〕

定植後、幼虫を確認したら直ちにコテツフロアブルなどで防除しましょう。

##### 〔野菜共通・ハスモンヨトウ〕

キャベツでは、セルトレイ育苗時はプレバソンフロアブル5などのかん注処理、定植後はアニキ乳剤やディアナSCなどで防除しましょう。野菜類はフローバックDFなどで防除しましょう。

・留意事項

キャベツのオオタバコガについては、本日発表の「オオタバコガ情報第1号（ダイズ・キャベツ・キク）」を参照してください。

キャベツのコナガは、フェロモントラップにおける誘殺数が少ない状況です。また、ハイマダラノメイガは、今後、発生に好適な気象条件が見込まれるため、注意が必要です。育苗期には防虫ネットなどで覆い、成虫の侵入を防ぐとともに、薬剤防除を徹底しましょう。

トマトでは、コナジラミ類の発生が増加する時期です。タバココナジラミはトマト黄化葉巻病（病原ウイルス：TYLCV）、コナジラミ類はトマト黄化病（病原ウイルス：ToCV）を媒介します。これらウイルス病の感染を防ぐため、育苗時、定植時にはコナジラミ類が寄生していないか確かめるとともに、コナジラミ類に効果のある粒剤を施用しましょう。また、侵入防止対策として、施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置しましょう。

イチゴの育苗ほどハダニ類の発生量が多い地域があります。育苗ほどは、気門封鎖型農薬などで防除しましょう。本ぼにハダニ類を持ち込まないために、必ず定植直前に防除を徹底しましょう。成虫と幼虫の両方に効果のあるアファーム乳剤、幼虫に効果のあるモベントフロアブルのかん注処理、成虫に効果のあるコロマイト水和剤、気門封鎖型農薬などを組み合わせて用いると良いでしょう。炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	オオタバコガ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並からやや少ない 8月の気温は高い	±～ +
	ハダニ類	多い	県全域	7月下旬の発生量が多い	+

・防除対策

〔キク（露地）・ハダニ類〕

コテツフロアブルやダニコングフロアブルなどで防除しましょう。なお、薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の農薬を連用せず、ローテーション散布を行いましょ。

・留意事項

キクのオオタバコガについては、本日発表のオオタバコガ情報第1号（ダイズ・キャベツ・キク）」を参照してください。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

東海地方 1か月予報（名古屋地方气象台8月2日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：20% 高い：70%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%